

第22回

NORTHWEST WHO'S WHO



宏徳エンタープライズ、Inc.
代表取締役
菅沼愛子さん

「住い」への満足感は、海外生活を成功させるためにとても重要なポイント。今回の Northwest Who's Who では、ベルビューにある不動産会社、宏徳エンタープライズの代表取締役そして不動産エージェンツとして、多くの人々の「住いの満足」達成のお手伝いをしてきた菅沼愛子さんが登場。その成功の影に隠れた波乱万丈の人生とは、一体どんなものなのでしょう。

少女時代

生まれは東京都太田区。幼い頃に母親が病死というつらい経験をしながらも、5人兄弟という大家族で、会社経営をしていた父親の厳しくも愛情深い指導の元、テニスが大好きな明るい少女に成長します。

大学では英文科を専攻し、テニス部のキャプテンとして部活に明け暮れる毎日を送っていましたが、その時知り合った他の大学の体育会からコーチに来ていた男性と知りあい、数年のお付き合いの後ゴールインという、まるで絵に書いたような幸せな結婚をしたのです。

結婚生活と夫の転勤

結婚数年目に長男の秀夫さんが誕生。子育てに追われていた1970年当時のある日、三井物産木材部の商社マンとなっていたご主人に、「ワシントン州シアトルに転勤」という突然の辞令が出ます。商社マンの妻として多少の心構えはしていたものの、まさか遠い異国の地に引っ越すことになるとは。こうして彼女のアメリカでの専業主婦生活が始まります。

自分でやらなきゃダメ

毎日が手探りの生活。毎日仕事で忙しい夫には頼れないと、菅沼さんはまず運転免許取

得を目指します。勉強嫌いを返上して、毎日筆記試験の勉強をした甲斐があり、見事合格。実技試験に幼な子を背負って出かけた時、子供はダメと言われたにもかかわらず、めげずに赤ちゃんをヒモでバックシートにくくり付けて試験官をうんと言わせたという、今だからこそ笑える話も。こうやって菅沼さんは、何でも人に頼らないで自分でやるというアメリカ的積極性をどんどん身に付けていったのです。

転勤生活は、気が付いたら7年8か月という長いものになっていました。滞在中は英語もいささか憶え、友人もできた充実したものでした。アメリカ生活で特に感動したことは、主婦が誇りを持って働いていること。日本では当時女性が職を持つことはまだ世間体が悪く、色眼鏡で見られたものでした。その後日本に帰国し、6年間で東京で過ごしますが、菅沼さんはある英会話学校の発足プロジェクトのコーディネーターとして2年間働き、働く喜びを実感。

そしてその後、ご主人に2度目のアメリカ転勤命令が下り、再び懐かしいシアトルへ…。

アメリカに居たい

赴任から1年ほど経った頃、ご主人が会社の定期検診で肺ガンと診断され、1年の闘病生活の後敢えなく他界。駐在員家族ビザでアメリカに滞在していた菅沼さんは、悲しむ暇もな

く急速日本への帰国を迫られます。しかし、生まれつき左腕がないというハンディを持った息子の秀夫さんに、実力さえあれば認められるアメリカ社会で生活させてやりたいという故人の希望も汲んで、彼女は何としてでもアメリカに残ろうという決意を固めます。

突然の狙撃事件

早速弁護士に相談すると、まずワーキングビザを取るのが一番の早道と勧められ、学生時代に取った教免を生かして日本語を教えることに。日本語補習校やベルビュー・コミュニティーカレッジなど3校を掛け持ちで教鞭を取る日々が続きました。そんなある日、彼女の身に信じられないことが発生。日本語補習校の校庭で、どこからか発砲された流れ弾に当たってしまったのです。目から入った銃弾は、幸い2度の手術の末無事摘出することができ、奇跡的に後遺症もなく今日に至っています。菅沼さんはこの時も、持ち前の「何とかなるさ」という前向きな姿勢でこの非常時を乗り切ったのでした。

アメリカ永住への道

ワーキングビザの有効期間は所詮たった数年。遅かれ早かれ日本に帰らなければならなくなる。どのようにすればアメリカの永住権が取れるか…と模索中、弁護士からアメリカで自分の会社を興すことを勧められます。そこでひらめいたのが、駐在員の妻として、そしてアメリカで生活する日本人としての自分の経験が生かせるビジネス、日本人赴任者の駆け込み寺的存在とも言えるコンサルタント会社の設立。そこで転勤者の相談相手、緊急連絡先となって気が付いたのが、相談内容に不動産関連の問題が非常に多かったことでした。

大きな買物だけに、失敗した場合のリスクが大きい不動産。その売買、管理を安心して任せてもらえる会社を作ろうと、不動産エージェンツになるべく猛勉強し、難関の試験を1回で見事合格。ついに宏徳エンタープライズ、Inc. の不動産業務開始に至ったのです。

いつでもフェアでいたい

それから7年。菅沼さんは日曜祭日も返上し、ただがむしゃらに働きました。日本とアメリカの常識や文化、法律、習慣の違いにより起こる不動産の問題を、当事者の立場になって解決する宏徳エンタープライズは、たくさんのお客様から信頼を得るようになりました。

一つ一つの仕事を大切にしてきたおかげで、現在では口コミのお客様がほとんどだとか。数年前からは、秀夫さんもエージェンツとして宏徳で活躍中です。

「どんな時でもフェアでいたい」、「売り手・買い手、みんながハッピーになれるお手伝いをしたい」と言う菅沼さんの姿は、プロとして尊敬の念を抱かずにはいられません。高校生の頃、東京オリンピックの聖火ランナーとして、神奈川県から東京に入った第一区間を走ったこともあるという彼女。これからも仕事という「聖火」と一緒にいつまでも走り続けて欲しい女性です。☺

おめでとう！「トップ・プロデューサー」にランクイン

米北西部で17,000人のエージェンツが登録している団体、ノースウエスト不動産協会より、菅沼愛子さんに1999年度の「トップ・プロデューサー」の称号が授与されました。家を売却するため市場に出すことを「リスティング」と言いますが、リスティングを担当したエージェンツについてのデータ（リストした家の価格、数、リスト価格と最終売却価格の差など）をまとめた結果、その上位10%にランクインしたエージェンツに与えられる栄誉ある称号が「トップ・プロデューサー」なのです。

菅沼さん、これからもますます頑張ってください！

